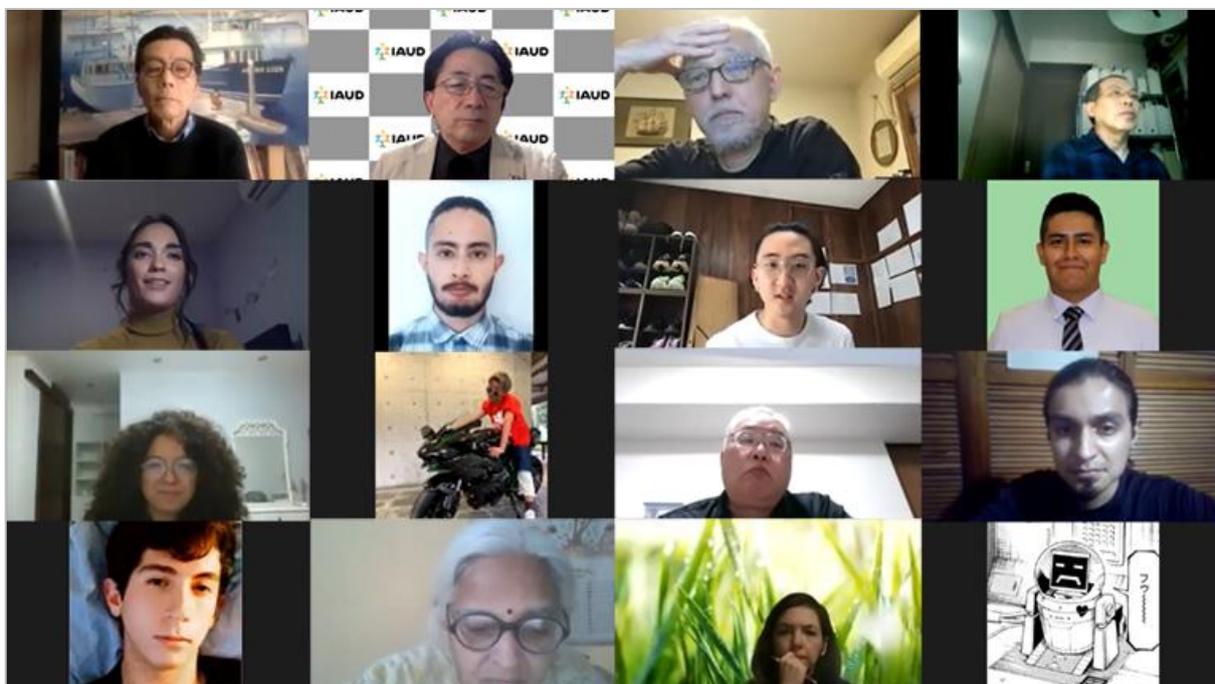


IAUD Newsletter vol.14 第2号(2021年5月号)目次

1. 第8回国際UD会議 2021 in ザ・クラウドワークショップ開催報告…………… 1
2. IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介④…………… 7
3. オンライン第5回 UD 検定・初級開催のご案内…………… 13
4. IAUD 5月の予定…………… 13

新型コロナウイルス感染防止のためのデザインを提案 2021 UD2021 オンライン UD ワークショップ開催報告



斬新なデザインが多数提案されたUDワークショップ「疫病退散!!」オンラインミーティングの様子

新型コロナウイルス感染防止対策の一環として開催された「第8回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2021 in ザ・クラウド」に付帯して、2月27日(土)から3月13日(土)までの2週間、オンラインUDワークショップ「疫病退散!!」が行われ、世界5か国から約30人の参加を得て大変盛況のうちに終了いたしました。

IAUD初のオンライン開催となった今回は、テーマを「新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン」とし、参加者はリモートで作業しながら斬新なデザインを多数提案しました。

今号のNewsletterでは、オンラインUDワークショップの開催内容について、ファシリテーターを務めた大島誠理事(名古屋学芸大学客員教授)が報告します。

※「第8回国際UD会議 2021 in ザ・クラウド」開催速報は[こちら](#)をご覧ください。

※「第8回国際UD会議 2021 in ザ・クラウド」開催報告を掲載したNewsletter vol.13 第12号(2021年3月号)は[こちら](#)をご覧ください。



UD2021 開会式で御挨拶される菅首相

■Day1 キックオフ: UD 有識者 3 名がファシリテーター

このワークショップは、IAUD が長年実施してきたデザイン提案型ワークショップ「48 時間デザインマラソン」のノウハウを活かし、UD 有識者である大島理事、久保雅義理事(京都工芸繊維大学名誉教授)、相良二郎理事(神戸芸術工科大学教授)の 3 名をファシリテーターにお迎えして実施しました。

今回は新型コロナウイルス対策のため、初めてオンラインで開催し、参加登録費は無料としました。

参加者は 2 週間にわたり、メールやオンラインミーティングでやりとりしながらリモートで作業し、国際会議テーマ「新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン」に沿ったデザイン提案を行いました。

そのキックオフが、「第 8 回国際 UD 会議 2021 in ザ・クラウド」最終日の 2 月 27 日(土)に開催され、ファシリテーターからオンラインで実施するにあたっての方針や進め方、期待などについて説明がありました。

なお、オンラインミーティングの情報保障として、日本語と英語の同時通訳で配信し、参加者は言語の音声を自由に選択できるようにしました。



ファシリテーターの大島理事、久保理事、相良理事

■Day2 ブリーフィング:世界 5 カ国から約 30 名参加

翌日の 2 月 28 日(日)に 1 回目のオンラインミーティングが行われ、メキシコ、インド、ポーランド、タイ、日本の世界 5 カ国からデザイン関係者や大学教授、学生など約 30 名が参加しました。

まず、川原啓嗣専務理事からウィルス不活化に有効な製品や取り組み、そして 2020 年に名古屋学芸大学で新型コロナウイルス感染防止をテーマに実施されたデザイン実習での成果物の紹介がありました。

続いて、ファシリテーターの大島理事は、2 月 26 日(金)に行われた「第 8 回国際 UD 会議 2021 in ザ・クラウド」のパネルディスカッション「パンデミック vs UD」で紹介された、スペイン、英国、ノルウェー、米国、日本でのパンデミック対応状況を振り返りました。

次に、参加者は自己紹介及び各国でのパンデミックの現状や問題点などを述べ合いました。

各国で共通して、飲食、移動・物流、仕事、教育現場、買い物など日常生活での問題解決が急務であることが明らかになり、参加者は 3 グループに分かれて問題を深掘りしながらワークショップを展開することになりました。

参加者には 1 週間後のオンラインミーティングまでの課題として、問題意識を共有するため各国の現状を画像や動画にすること、「第 8 回国際 UD 会議 2021 in ザ・クラウド」で紹介された様々な感染防止技術を活用した解決策をイラストなどにすること、が求められました。



オンラインブリーフィングの様子

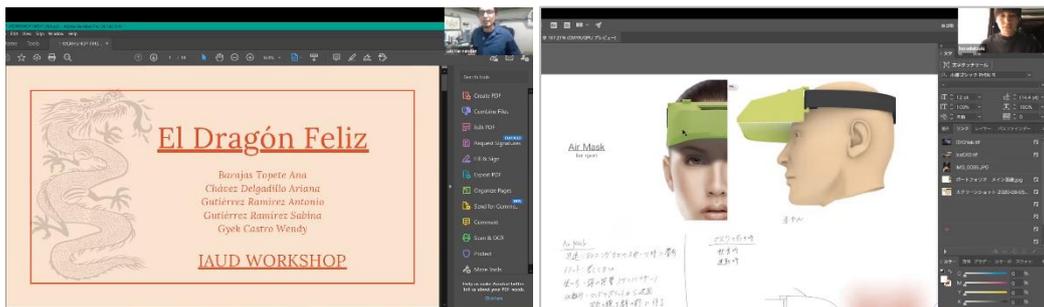
■Day8 中間レビュー:3グループに分かれ討議・デザイン考案

3月6日(土)に2回目のオンラインミーティングが行われ、ファシリテーターや参加者は各国のパンデミック状況や感染防止事例を各自作成した静止画や動画で報告し合い、ヴィジュアルに情報共有すると同時に、既に進めている解決策やデザイン案を発表しました。

その後、参加者は3グループに分かれ、Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用してグループ毎にテーマに沿った討議やデザイン案の深掘りを行いました。

最後に全体でのミーティングを再度実施し、各グループで話し合われた内容やユニークなデザイン案を共有しました。

次回のミーティングまでの課題としては、現在のデザイン案を発展させること、デザイン案をスケッチやCAD、動画などでわかりやすくプレゼンテーションすること、が求められました。



参加者から考案中のデザインが説明された

■Day15 最終レビュー:斬新で実現性のあるデザインを多数提案

最終日の3月13日(土)には3回目のオンラインミーティングが行われ、グループ毎にこれまで考案されたデザインの発表と全体での意見交換、ファシリテーターからの総評がありました。各グループのテーマと参加メンバー、提案された主なデザインは以下のとおりです。

グループ1:「ニューノーマルなライフスタイルと新しい器具」

久保理事(ファシリテーター)、川原専務理事、日本からの参加者

学校やレストラン、スポーツ観戦などのイベントで窮屈な生活スタイルをとるのではなく、コロナ禍前よりもワクワクできるような新しいビジネスを興す提案をしました。

- ① エアーカーテンで感染防止できる Air Mask: バイザー下のスリットからファンでエアーを吹き出すことで、マスクの息苦しさを避けながら飛沫拡散防止できる高機能フェイスシールド。スポーツ観戦やコンサートなどイベントグッズとしてビジネス拡大も期待できる。試作品も作成した。



- ② Ingressive 会話デバイス: 小声発話をデータ変換するマイクロソフト開発のデバイスを応用した新しいコミュニケーションツール。小声の会話をデータとして相手のスマートフォンなどに送付し、大声を出せない日常でもコミュニケーションできる。聴覚障害者との会話にも利用可能。
- ③ 飛沫防止スポーツ観戦メガホン: 声援時の飛沫を防止しつつ音声は拡声されるため、感染防止と大声での声援という二律背反のニーズを満たしながら楽しくスポーツ観戦できる。

- ④ ビュフェ形式レストランでの感染対策：銅製カトラリー、光触媒・無光触媒コーティングの家具、紫外線ランプで無人時殺菌、干渉しない食事スペース、飛沫防止ガードなどの合わせ技による対策が有効。

グループ 2:「レストラン空間の安全とインクルージョン」

相良理事(ファシリテーター)、メキシコからの参加者

安全な環境で楽しく飲食し会話を楽しめる日常が戻ってくるよう、ショッピングモール内の3タイプの店舗(テイクアウト専用、バー、店内飲食 OK)を対象に、「第8回国際 UD 会議 2021 in ザ・クラウド」で紹介されたウイルス不活性化技術を取り入れた感染対策を考案しました。

最終的に3タイプのアイデアを統合し、5m×5mという小規模な空間でUDを取り入れた新型コロナウイルス感染防止のデザイン案としてまとめ、コロナ禍で打撃を受けている世界各地のレストランのほか、駅や病院にも応用できるアイデアとなりました。



飲食店に UD を取り入れた新型コロナウイルス感染防止のデザイン案

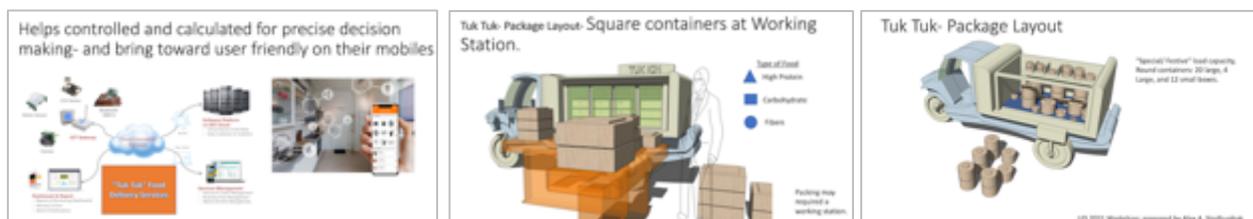
- ① ドアハンドルや手すり、取手、点字メニューに銅か銅合金を使用。銅板による点字表示は銅箔テープなどの既存製品を応用することで簡単に実現可能。
- ② 電照サインやイルミネーションに222nmUV-Cと可視光線を組み合わせ、壁面や床面、テーブル面に無光触媒を塗布。222nmUV-C は高額で入手困難のため、飲食ブースでの人の入れ替わり時や食料品やカトラリーを運ぶ小型エレベーターなど人への照射を避けられる条件下では256nmUV-C利用へ転換。なお、紫外線は不可視光で目に見えないため、可視光線を加えて不活性化の動作状態に見える化し、顧客に安心感も与える。
- ③ 会話による飛沫をテーブル面から下方へ吸引し、フィルターとUV-Cで不活化する。
- ④ 車いす利用者に配慮しスロープや跳ね上げ式座席、低いカウンターを設置し、聴覚障害者向けにはキッチン内に鏡を多用するなど UD 要素も加えた。

グループ 3:「Tuk-kin 物流新提案、銅繊維ファッション・家具、光殺菌装置」

大島理事(ファシリテーター)、ポーランド、タイ、インド、日本からの参加者

世界各地でのパンデミック状況を分析し、様々な問題点を討議しながら、参加者はそれぞれ高度なテクノロジーを使わない感染防止対策を多様な角度から考察しました。そして、各地域に合ったニューノーマルなライフスタイルについて斬新なデザインを提案しました。

- ① 新しいデリバリーシステム Tuk-kin: コロナ禍のためタイで利用が激減している 3 輪タクシー トゥクトゥクを利用して、新しいデリバリーシステムを構築する。後部座席を荷室に簡単に改造し、注文はスマートフォンで受け、GPS 搭載でどこでも配達可能。コンテナも内容ごとに丸や四角などに形を変える。医薬品の搬送にも活用できる。



- ② 感染防止できるマスクや衣類: 銅繊維を織り込んだ布を利用し、光触媒コーティングや染め方、形状などを工夫し、感染防止を強化したマスクを考案。さらに、感染防止目的とファッション性を兼ねたサリーやドレス、着物などの衣類のほか、机やイス、ヘッドボードなどに用いる家具カバーにも応用。



- ③ 紫外線除菌できるハンドドライヤー: コロナ禍で現在は使用不可であるトイレのハンドドライヤーを紫外線殺菌装置に改良し、乾燥かつ除菌対策に利用する。両サイドから手を入れて殺菌し、除菌度合は中央にあるモニターで確認できる。



- ④ 銅素材を利用した家具: 銅のウィルス不活化に着目し、従来の家具の表面に銅フォイルや銅メッシュを巻き付けて感染防止を図る。また、銅繊維を織り込んだ布を家具に置いたり、取手に銅素材を活用するなどして感染防止。



アイデアを一覧できる疫病退散マトリックス

各グループからの発表後、大島理事からこれまで考案されたアイデアを俯瞰できるマトリックス(次頁図参照)の提示がありました。

縦列に人の行為 7 種類、横列に新型コロナウイルス感染防止対策 7 種類を記載し、縦横交わるマスには具体的な技術やアイデアを列挙しています。既の実施されているものは黒字、今回のワークショップで提案されたアイデアは赤字で記載しており、それぞれをクリックすると詳細画面へ飛ぶようになっています。

	Prevent From Crowd, Air-Tight, Contact 三密防止	Ventilation /Environment Dividing Space 換気・空間設定	Masks/ Clothing マスク・衣服	Sanitizing 殺菌・消毒	New Normal Lifestyle ニューノーマル ライフスタイル	Devices for Essential worker & Disabilities エッセンシャルワーカー 障がい者対応	Etc.
Restaurants/ Bars 飲食の場	Sanitized table/Partitions/Booth designs	Ventilated rooms/kitchens Use of outside	New mask material/style	Care222 Ultraviolet light, Photocatalyst	Individual dish Take out Out food court	Copper braille menu &Kitchen go	
Tourism/Transportation Shopping 観光・物流・買い物	Separated resort destinations/Vacation times	Ventilated Hotel rooms/ Transportation interiors	New mask material/ New sanitized style/Fashion	Improved Hand drier Sanitized interiors	New transport Workation Outdoor resort Online shopping	New Tuk-kin delivery	
Medical 医療	Prompt Vaccination	Line up Sickbeds	New protective suit/maintaining P. suit	Office sanitizing Care222&others Photocatalyst	Remote check up	New clothing	
Sports/Game watching スポーツ・観戦	Improved Locker room /Cheering seats	Ventilation in sports Arena	Air Cap/Hat /Cheer megaphones	Care222 & Other ultraviolet light	Self training Remote Cheering	2021 Olympic, Paralympics watching& Cheering	
Education 教育	Remote Lecture/ Lesson	Classroom Ventilation			Lecture/On demand lecture	Lecture/Lesson	
Work Style 仕事のかたち	Telework Satellite office	Office ventilation Copper covered furnishing		Office sanitizing Care222& others Photocatalyst	Telework Style Revolve Hand craft	Talk assist by smart phone Chat	
Home/Raise 家事・育児	Balance work & family life	Obtain one's space	Improved contact	Safe Sanitizing	Vegetable garden Mental care	Everybody spend fun time	



今回のワークショップで提案されたアイデアを統括した疫病退散マトリックス(左図)と詳細画面

安心・安全な社会の復活へ

初のオンライン開催となった今回のワークショップは、日本全国及び海外から多くの参加者を得て、新型コロナウイルス感染防止対策に関する実現性のある斬新なデザインが多数提案され、無事に終了しました。

参加者からも、「UDを学ぶことができ素晴らしい経験となった」「UDはすべての改善に繋がるとわかった」「各国の様々な考え方やデザインプロセスを学べた」「国際ワークショップが身近に感じられた」「提案されたアイデアが雇用に繋がるといい」「今後もぜひ続けてほしい」など大変高い評価をいただき、パンデミックという世界共通の問題に関して多くの方と討議し、UDをより理解する大変よい機会にもなりました。

IAUDは今回のワークショップで得た成果の総括をしっかりと行い、2回目、3回目の開催に繋がっていきます。そして、2021年秋に開催予定の「第9回国際UD会議 2021 in ドバイ(仮)」でも発表する予定です。

また、優れた提案にはクラウドファンディングによる資金調達を実施し、プロトタイプ製作、ユーザビリティ評価を通して実現化を目指したいと思います。

そして、思いを同じくする世界中の人々の知見と叡智を結集し世界へ発信することで、パンデミックの一刻も早い終息と安心・安全な社会の復活を目指します。



革新的な UD 活動を国際的に表彰 IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介④

IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介の第 4 回目は、住宅・建築部門金賞を受賞した有限会社なにわ旅館（なにわ一水）の「障がいのある人もない人もみんなで一緒に泊まれる温泉宿」です。

ロジャー・コールマン審査委員長（英国王立芸術大学院名誉教授）は、「長い間様々な努力を重ね、インクルーシブな体験を提供できるようにした魅力的な UD。UD の原則に確固たる信念をもって継続的に努力し、ユーザーから学んだ結果達成した素晴らしい実例」と評価しました。

今号の Newsletter はこの取り組みについて、有限会社なにわ旅館代表取締役社長の勝谷有史氏に紹介していただきます。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介①は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介②は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介③は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 プレゼンテーション／表彰式開催報告は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞結果は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 審査講評は[こちら](#)をご覧ください。



温泉旅館の情緒とバリアフリーの両立を実現

住宅・建築部門金賞：障がいのある人もない人もみんなで一緒に泊まれる温泉宿
有限会社なにわ旅館（なにわ一水）



宍道湖を一望する日本の伝統建築と UD を取り入れた「なにわ一水」の客室

2006 年から旅館のバリアフリー・UD を推進

有限会社なにわ旅館が経営する「なにわ一水®」は、国際文化観光都市である島根県松江市にある温泉旅館です。

松江市は、日本海と宍道湖、中海に面した「水の都」として知られ、1951 年に京都や奈良とともに国際文化観光都市に指定されています。また、なにわ一水®からは、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール条約)」にも登録されている「宍道湖」を一望することができます。

なにわ一水®では、2006 年から既存の温泉旅館を段階的に改修し、「旅館のバリアフリー・UD」を推進してまいりました。これは高齢や障害等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行「ユニヴァーサルツーリズム」のニーズに対応した取り組みです。

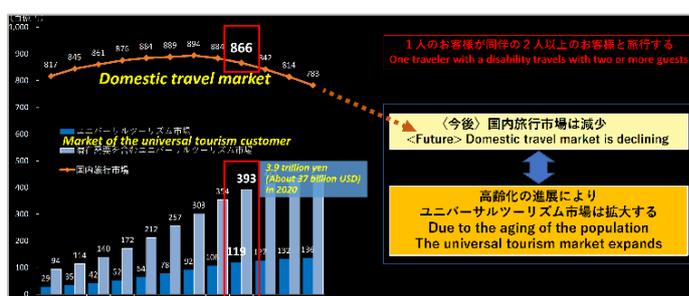
拡大するユニヴァーサルツーリズム市場

現在、日本の国内旅行市場が減少している状況でも、2020 年には潜在需要を含むユニヴァーサルツーリズム市場は約 3.9 兆円(新型コロナウイルス感染症拡大による影響がなかった場合)と推計されており、国内旅行の約 4 割を占めています。

さらに、今後も高齢化の進展によりユニヴァーサルツーリズム市場は拡大する、といわれる巨大市場です。

これほど大きな「誰もが気兼ねなく旅行したい」という要望があるにもかかわらず、「年齢や障害を理由に旅行をそもそも諦めている」のが日本の現状なのです。

そこで、なにわ一水®では、年齢や障害によって旅行を諦めないですむような旅館を目指しました。



ユニヴァーサルツーリズム市場推計グラフ

15 年間で段階的にバリアフリー・UD 化

2006 年に初めてバリアフリー・UD に取り組んだ際は、設備投資をするにも旅館の経営は厳しく、すべての建物を改築することはおろか、館内の大規模改装をすることも資金的に難しい状況でした。

また、当時の旅館内には段差が多く、一般の宿泊客でもつまづくことがある状態でした。

そこで、まずは 5 階建ての建物の 4 階を露天風呂付き客室の特別フロアに改装して、その一部をバリアフリー・UD 化することから始めました。4 階はもともと 8 室ありましたが、そのうち 2 室を合体して 7 室にし、合体してできた客室は段差をなくしたり、トイレを拡張したりしました。

のちに、この客室はなかなか予約のとれない高稼働の客室となってしまったので、障害のある旅行者が優先予約できるよう予約受付方法を改善しました。

また、7 室のうち 5 室はノンステップに改装し、扉の開口幅は可能な限り 80 センチメートル以上にしました。



バリアフリー・UD 化した客室

2010年には、3階を「デザインフロア MINAMO®」に改装しました。廊下にある段差をスロープにしたほか、建物の角に位置して穴道湖が見えにくい客室と全く穴道湖が見えなかった客室、これらの売れにくい2室を合体して、バリアフリー・UDの客室に改装しました。

客室は一つ減りましたが、1組当たりのご利用人数が多いご高齢のお客様や障害のあるお客様にこの新しい客室をよく使っていただけるようになりましたので、改装前の2室だったときに比べて売り上げは1.5倍に増えました。



デザインフロア MINAMO にある客室

2014年には1階にあるトイレの改装に着手し、オストメイト(人工肛門・人工膀胱保有者)対応の多目的トイレを設置したほか、個室のトイレ内にもベビーチェア、フィッティングボードなどを備えつけました。機能だけでなく、快適さやデザイン性も重視しています。

女性トイレは女性従業員の意見を積極的に取り入れ、女性が必要としている設備や工夫を導入しました。

また、宿泊業界では初の車いす用リフト付き大型車両を導入しました。乗務員には、車いす利用者に対する接客方法や運転技術も訓練しています。



(左より)オストメイト対応の多目的トイレ、女性従業員の意見を取り入れた女性トイレ、業界初の車いす用リフト付大型車両

2016年には2階も「デザインフロア MINAMO®」に改装し、やはりバリアフリー・UDの客室を一つ設けました。

室内には段差がなく、車いす利用者や足の悪い方にも利用しやすく設計されています。また、3世帯旅行などに対応するコネクティングルームとしての使用が可能です。

客室には聴覚障害のお客様がご利用いただけるよう、フロントへの専用回線がついたFAXや呼出用フラッシュライト、筆談器を備え、テーブルは車いすの高さに調整できる昇降式のものにしました。

さらに、客室のバリアフリートイレはオストメイト対応で車いす利用者にも十分な広さがあり、洗面所にはお子様や車いす利用者にも使いやすいよう、低い洗面台も設置しています。

また、車いすのままでも入れるウォークインクローゼットは、車いす利用者のアドバイスを受けながらデザインしました。



高さを調整できる昇降式テーブル



(左から)客室内のバリアフリートイレ、車いすのまま利用できる洗面所とクローゼット

この客室内には、宍道湖が一望できる天然温泉を給湯した露天風呂があります。浴槽には高齢者や障害者が座ったまま入浴できるよう、防水仕様でモーターによる昇降可能なシャワーキャリーを導入しました。シャワーキャリーは浴槽から取り外し可能で、必要なお客様には無料で貸し出しております。

また、シャワー室は動かなくても全身に当たる「The シャワー※」を設備した「ユニヴァーサルシャワーブース」となっています。シャワーキャリーのままでもシャワーが利用でき、2人でも入ることができる広いスペースは介助するお客様にも喜ばれています。 ※Panasonic Corporation



(左から)客室内の露天風呂、シャワーキャリーを設置したオリジナル浴槽とユニヴァーサルシャワーブース

さらに、同じ2階にあった宴会場を、10の個室がある食事処に改装しました。そのうち5室は間口を1メートル以上確保して車いすのままでも利用できるようにし、別の3室には小児向けのベンチシートを導入しました。

小宴会場の出入り口には段差があったため、段差解消機を設置しました。



←車いすのまま利用できる食事処(左写真)と段差解消機

2019年には、既存のエレベーターを車いす対応エレベーターに改修しました。

2020年には1階ロビーのバリアフリー・UD改修工事を行い、宍道湖側のガーデン出入りにスロープと段差解消機を取り付けました。また、車いす利用者のスペースを確保した喫煙室も設置しました。

2021年にもUDに取り組む施設改修を行う予定です。



(左から)バリアフリー・UD 改修したロビー、スロープと段差解消機を設置した出入口、車いすスペースを確保した喫煙室

ユーザー視点で整備

「障害のある人もない人もみんなと一緒に泊まれる温泉宿」を実現するための UD で必要なことは、「温泉旅館の情緒」と「バリアフリー」の両立です。

温泉旅館の情緒にデザインの重点をおくと、バリアフリーによる利用しやすさが失われてしまいユニヴァーサルツーリズムは実現しません。

反対に、バリアフリーのデザインに重点を置くと、まるで医療施設や福祉施設の様になってしまい、温泉旅館の情緒は失われてしまいます。

なにわ一水®の UD 化改修工事では、「温泉旅館の情緒」と「バリアフリー」の両立を目指して旅館側の責任者、設計・建築・設備・電設・浴槽及びエクステリア(建物外側の空間)、金融機関の担当者などが一堂に会して意見交換する場を設けています。プロジェクトが円滑に進むのはもちろん、関係者の認識を擦り合わせたうえで臨んでこそ、納得のいく成果が得られると考えているからです。



UD 化改修工事の会議を開催

同時に障害者のサポート方法や施設については、障害者の社会参画支援を行っている特定非営利活動法人からの助言を受けながらユーザー視点での整備も進めています。

すべての人が泊まってみたい旅館に

旅館ならではの非日常空間を演出した「温泉旅館の情緒」と、お客様の使いやすい設備としての「バリアフリー」の両立をコンセプトに完成したバリアフリー・UD の客室は、障害のある人のための特別な仕様ではなく、むしろすべての人にとって泊まってみたいと思えるおしゃれ感と非日常性、そして使い勝手の良さがあります。

こうして、高齢者のグループや、障害者と付き添いの人のグループをはじめ、3 世代の旅行者、高齢の親を連れた旅行者など、多くの顧客層にご利用いただくことができるようになりました。

お客様の満足度も向上し、旅行会社や宿泊予約サイトで高い評価をいただいています。

働きやすい職場環境

これまでの取り組みは、自社の経営だけに改善をもたらすものではありません。旅館の売上が増加し経営が安定することは、地域への経済波及効果が大きくなることにつながるのです。

また、こうしたハード面の改革は、従業員にとってもメリットがありました。施設の段差がなく、間口が広くなることで、作業がしやすく働きやすい環境になったのです。

お客様にとっての UD は、旅館で働く従業員にとっても働きやすい職場環境に変化しました。

従業員に UD 研修

UD に旅館を改修するだけでなく、「おもてなし」をする従業員への研修も同時に実施しています。

「共に障害の有無にかかわらず誰しものが暮らしやすい社会の実現」を目指す「あいサポート運動」に取り組んでおり、全従業員が「あいサポーター」であり、会社も「あいサポート企業」として登録されています。

また、障害の理解については社内研修だけではなく、「サービス介助士」の資格取得に向けた社内制度や、自主的に他の宿泊施設を視察し、事例研究による職務能力の向上を行う宿泊施設研究助成金の制度もあります。

お客様が利用される際の心地よさや利用しやすさは、従業員のホスピタリティやおもてなしの心がなければ成立しません。

障害のあるお客様やご高齢のお客様、小さなお子様と一緒にのお客様にお貸出しする備品や特別なお料理も、従業員が自主的に用意をしています。

さらに、非常時に障害のあるお客様が安全に避難できるよう、マニュアルの作成や避難訓練を実施しています。



障害理解のための社内研修も実施

温泉旅館の UD 先進事例に

なにわ一水®の取り組みは、旅館におけるバリアフリー・UD の先進事例となりました。そして、推進してきた温泉旅館の UD に関する経験や知識、そして実績数値などの情報については、宿泊業界や地方自治体、日本バリアフリー観光推進機構及び各地のバリアフリーツアーセンターなどが開催するセミナーで公開しています。

また、これまで下記の受賞と企業選定を受けました。

- ・2016年12月：バリアフリー・UD 推進功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」受賞
- ・2017年12月：「松江市障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり条例に基づく市長表彰」受賞
- ・2018年12月：経済産業省「地域未来牽引企業」選定

すべての人が利用しやすい温泉旅館を目指して

現在、新型コロナウイルス感染症拡大により気兼ねなく旅行することが出来ず、多くの人が旅行を諦めていると思います。

早くコロナ禍が終息し、障害のある人もない人も、そして医療従事者の方をはじめコロナ禍で苦しい思いをされた方も、みんなで気兼ねなく旅行できるようになることを願いながら、これからも「すべての人が利用しやすい温泉旅館」を目指してまいります。

※なにわ一水®公式サイトは[こちら](#)をご覧ください。



在宅でいつでも UD 資格取得 オンライン第 5 回 UD 検定・初級開催のご案内

IAUD は 5 回目となる「オンライン UD 検定・初級」を申し込み受付中です。

「オンライン UD 検定・初級」は、UD に関する基礎的な知識を学習する講習と力試し問題、検定試験(30 分・50 問)のセットです。

実施期間中であれば、時間・場所を問わず講習から検定試験までを受けることができます。

問題はすべてオンラインで受講した講習内容から出題され、合否は検定試験終了後すぐに判定されます。

合格者には「UD 検定・初級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

申し込み受付は 5 月 13 日(木)までです。この機会に是非、ご参加ください。

※「オンライン第 5 回 UD 検定・初級」詳細・申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※「オンライン第 1 回 UD 検定・初級」開催報告を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください。



「オンライン UD 検定・初級」講習画面

IAUD 2021 年 5 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6	7	1/8	2/9
10	11	12	13 オンライン第 5 回 UD 検定・初級 申し込み締切	14	15	16
17	18	19	20 14:50~ 衣の UDPJ オンライン会合	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

次号は 6 月上旬発行予定

特集: IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介⑤ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局: 〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417 e-mail: info@iaud.net